

【15用語】

樵路 (しやうろ) …きこり (樵夫) が行き来する山路  
 巉巖 (ざんがん) …きりたつたような険しいがけ、峻険  
 攀援 (はんえん) …よじ登ること  
 魚貫 (ぎよかん) …魚を串に刺して連なつたように進むこと  
 加之 (しかのみならず) …そればかりでなく、その上に  
 洪益 (こうえき) …大なる利益  
 経脈 (けいみやく) …からだの脈  
 要緊 (ようきん) …緊要に同じ、極めて大切なこと、肝要  
 畢竟 (ひつきよう) …つまり、結局  
 洪大 (こうだい) …たいへん大きなこと  
 因循 (いんじゆん) …古い習慣によつて改めぬこと、決断力に欠けぐずぐずすること

比類 (ひるい) …比べるもの、たぐい  
 方今 (ほうこん) …ちようど今、現今、目下  
 利澤 (りたく) …利益と恩沢と、もうけ、利潤  
 懇篤 (こんとく) …親切で手厚いこと、ねんごろ  
 欣躍 (きんやく) …喜んで小躍りすること  
 奏功 (そうこう) …功を奏すること、事の成就すること  
 僅々 (きんきん) …わずかばかり、いささか  
 趨歩 (すうほ) …小走りに行くこと  
 障碍 (しょうがい) …障害、さまたげ、じやま  
 具状 (ぐじよう) …くわしい事情、またその文書

【15解説】

清水越えとは、江戸時代に越後国魚沼郡清水村と上野国利根郡湯楡曾村を結ぶ峠越えの道筋であるが、近世前期から一般の往来が禁じられていた。しかし明治時代に入ると、越後米など物産の交易路としてこの道が再び脚光を浴びることになり、時の熊谷県令河瀬秀治は開鑿の工事費を民間の篤志家らの出資でまかなうこととし、内務省にその承認について伺い出たのである。

本文書は、この清水越え道開鑿の伺いに対し、内務省の認可を示した文書であるが、新潟県側との調整に着手すること、及び工事費や施工方法の詳細については改めて調査・報告するよう指示していることがわかる。ただ、この計画を実施する直前になって西南戦争がおこつたため中断せざるを得なくなつた。そして本格的な工事に着手したのは明治十四(一八八一)年七月のこと、四年後の同十八年八月に竣工、九月七日に開通式が行われている。